ART KISS LETTER

TITLE

MINIATURE LIFE展2
—田中達也 見立ての世界—

DATE

2021
1.29㊎／3.14㊐

開館時間　10:00－20:00（展覧会入場は19:30まで）
＊ただし3月2日・9日は開場時間10:00－17:00
（展覧会入場は16:30まで）

休館日　火曜日、2月24日（水）
＊ただし2月23日、3月2日・9日は開館

田中達也
《“パン”ラシュート》
2017年
©Tatsuya Tanaka

MINIATURE LIFE展 2

ミニチュアライフ

田中達也 見立ての世界

熊本展限定の新作《元気を充電できる街》(2021年)について

田中達也

この作品は今回の展覧会のために作りました。展示するのもこの会場だけです。
この作品はまさに、美術館を出て、通町筋の横断歩道から見たような景色を作っています。皆さんにとっても、身近な景色だと思います。僕も、熊本に住んでいた高校生時代に、よくパルコとかその辺りに遊びに行って、パルコの横の、大文字というお好み焼き屋に立ち寄るというのがいつものコースで、そういう思い出も含めての、熊本城を主題とした作品です。
2018年に熊本の鶴屋デパートで個展を開催した時、展覧会限定作品として、お城納豆のパックで熊本城を作ったんです。でも、今回もどうしても熊本城を作りたいと考えて、どのように表現するかで悩んでいましたが、担当学芸員の冨澤さんと話をしていた時、熊本には「つくりもん」という市民文化があると聞きました。
「つくりもん」というのは、実際の日用品を色々組み合わせて、別の何かを構築して作品に仕上げ、それをまた分解して元に戻し、再利用できるようにするのがルールという話を伺ったので、今回は、それになぞらえて、電源タップをそのまま1個で見立てるというよりは、「つくりもん」らしく、たくさんの電源タップでうまく構成することで作品にしようと考えて作りました。差し込めば繋がりますし、自在に角度がつけられるのも電源タップの特徴で、「これだ!」と思い、鹿児島市内の電気屋さんを巡って電源タップを買い占めました(笑)。手前は縦長の電源タップを用いて、ビル群として表現しています。
立体作品は、写真作品と見比べるとずいぶん違うなと思われるかもしれませんが、実際スマホで撮影してみると、遠目に熊本城があるように見えて、写真作品とかなり近づきます。低めのアングルで撮るといいですよ。
ちなみに、黒い服の人物が僕です。パルコ前付近にいますので探してみてください(笑)。
それと、実は立体作品を横から見ると、加藤清正がいます。この周辺だけを撮っても面白いかもです。お城と加藤清正だけで撮影すると、戦国時代風になります。そういう風に色々楽しんでください。

組み立て風景

1 お城を組み立てる

2 市電の線路をコードで作成

3 配置を見ながらビルを建てる

4 真ん中に一人置いてあるのが田中さんの人形!

5 人形を配置。田中さんはどこかな?

田中達也
《元気を充電できる街》
2021年
©Tatsuya Tanaka

1.アトリエ再現コーナーは見どころのひとつ。　2.《市場から鮮魚を直送》(2018年)。背景色の水色は、田中さんの作品の目印になっています。背景色のバリエーションにはベージュや黒も。　3.《しばらくここで待ってクリップ》(2018年)の人形は、他の作品と比べてやや大きめ。ベンチに見立てられたクリップとのサイズ感が絶妙!　4.#Adventureのゾーンは、探検や発掘、宇宙旅行など夢がいっぱい。

1

2

3

4

ギャラリーIII
G3-Vol.138

豊田有希写真展 あめつちのことづて

会期 ： 2021年1月20日(水)－4月4日(日)

助成：
公益財団法人 野村財団

EXHIBITION

熊本市出身の写真家・豊田有希の個展。「あめつちのことづて」の舞台は、行商人の行き交いにより水俣病の被害が現代になってわかった芦北町黒岩地区。その集落に生きる人々の、昔ながらの素朴な暮らしが残る農作業や祭り、食卓、ポートレートなどを撮った作品約40点を紹介します。

左・上ともに／豊田有希《あめつちのことづて》より

PROJECT

令和2年7月豪雨REBORNプロジェクト

本プロジェクトは、写真家・豊田有希が中心となり、令和2年7月豪雨で水損した八代市坂本町に残るネガフィルムを、クリーニングしてデジタル化し保存、再プリントするものです。これらは地元のアマチュア・カメラマン、故・東儀一郎氏、本村孝夫氏らが撮影したもので、昭和30年頃の旧坂本村の暮らしの様子が写し出されています。
「REBORNプロジェクト」は、残ったネガフィルムを保存し公開することで、町の方々を始め多くの方と、坂本という土地の記憶を共有し、その再生(REBORN)を目指すものです。今回は、プリント展示とあわせて、復活した水損写真やネガをまとめた記録写真集を発行しています。(2000円、ショップにて販売)

上／219号線から坂本町の中心部へと続く坂本橋。令和2年7月豪雨にて流失。水損の激しかった35mmカラーフィルムのデジタルデータ(撮影：東儀一郎氏)　右2点／水損ネガレスキュー作業時の風景

助成：一般財団法人 熊本放送文化振興財団、日本財団

EXHIBITION

井手宣通
記念
ギャラリー

CAMKコレクション展
「穴・距離」

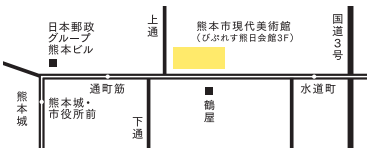
会期 ： 2021年1月20日(水)－4月4日(日)
出品作家 ： 宮崎静夫、横山博之、三浦洋一、川島清

絵画は、底や向こう側が見えない〈穴〉や、はるか遠い〈距離〉を平面に描くことができます。こうした絵画の表現は、二次元の平面に三次元の空間を再現する方法にとどまりません。〈穴〉や〈距離〉を超えたその先に、私たちは自らの心象を投影しているのではないでしょうか。本コレクション展では、当館所蔵作品より、宮崎静夫らの絵画と川島清の彫刻を展示します。

宮崎静夫《友よ》2002　熊本市現代美術館蔵

熊本市現代美術館
Contemporary Art Museum, Kumamoto

ART KISS LETTER Vol. 97(2021年3月) ［次号は4月発行予定］
編集 ： 佐々木玄太郎　冨澤治子　坂本顕子
印刷 ： シモダ印刷　　発行 ： 熊本市現代美術館　　www.camk.jp
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3　Tel 096-278-7500



［来館者の皆さまへのお願い］新型コロナウィルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットのご協力をお願いいたします。また、発熱・咳・くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。